

編集後記：およそ2年ごとに回ってくるはずの編集後記ですが、委員の交代が重なって一気に繰り上がり、前回から1年半で再び順番が回ってきました。温めていたネタもなく、締切も迫ってきて、いよいよ煮詰まってきた…。あれっ？この日本語は合ってる？

締切直前になってネタが降ってきました。

さっそく「煮詰まる」をインターネットで検索してみたところ、文化庁のWebサイトの記事にたどり着きました。その記事によりますと、本来は「議論などが結論を出す段階になること」を意味するが、最近は「行き詰まる」という意味でも使われてきていて、正反対の意味で捉えられてしまう可能性があるそうです。この記事を読んで、新しい使い方を誤用と切り捨てたりしないことに感心しましたが、最初の疑問である「煮詰まる＝行き詰まる」かについては結論が出なくなってしまいました。そもそも言葉は時代により変

化するものなので、新しい用例を誤用とみなすのはナンセンスなのかもしれません。

さて日本語の変化という観点から「天気」の編集作業を振り返ってみます。私が担当する校正作業においては、担当する1冊分を少なくとも1回は隅々まで目を通します。今のところ見たことのない言葉に出会うことはありましたが、幸いにして(?)私が知っている意味と違う意味で使われている言葉に出会うことはありませんでした。しかし、言葉は変化するものということを考えて、いずれ新しい使い方の言葉が出てくるかもしれません。そのときに読者に誤解を与えないためにも、日ごろから学術の動向だけではなく言葉の変化にもアンテナを張っておかなければと、「煮詰まる」という言葉に気づかされたところで、今回は筆を擱きたいと思います。

(中村 貴)